

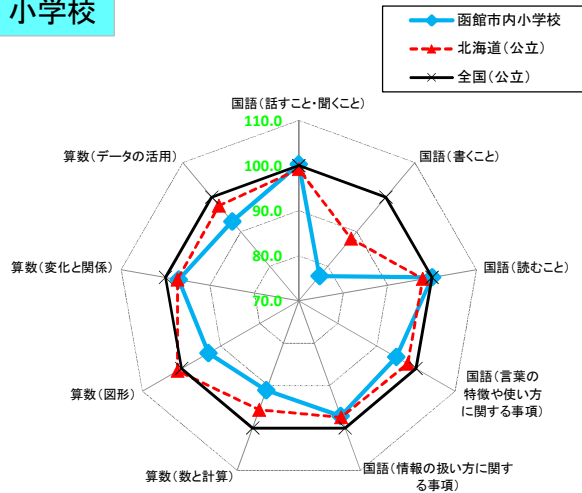
■函館市内の状況及び学力向上策（小学校数：39校、児童数：1484人）（中学校数：19校、生徒数：1413人）

【教科全体の状況】

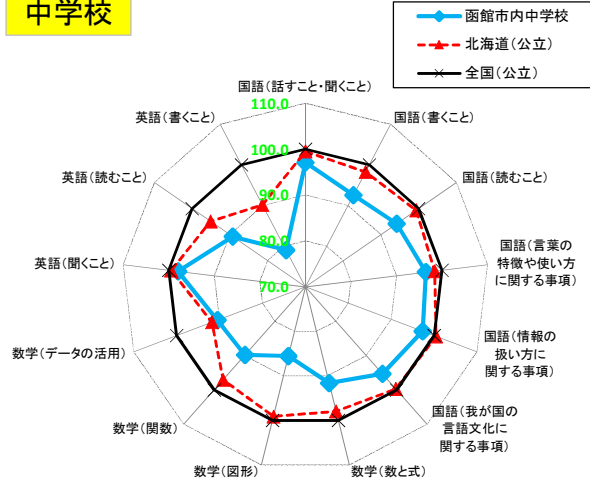
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	67
算数・数学	58	46
英語	-	42

小学校

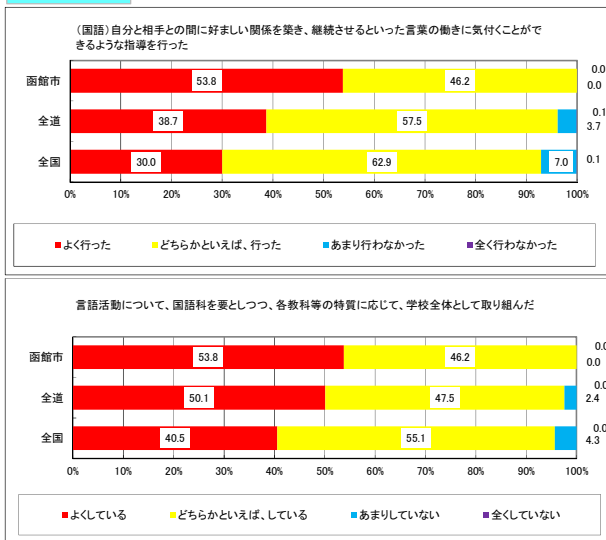


中学校

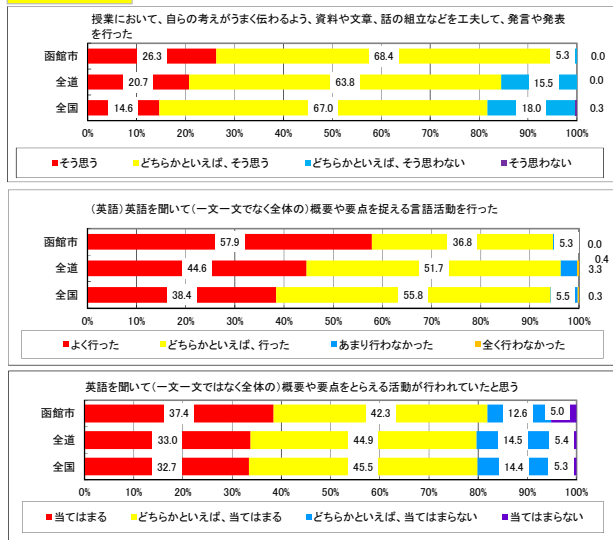


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行ったことにより、国語科の「話すこと・聞くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の「読むこと」の領域で、平均正答率が全国と同様になったと考えられる。

中学校

授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して、発言や発表を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、平均正答率が全国と同様になったと考えられる。

英語の授業において、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、英語の「聞くこと」の領域で、平均正答率が全国と同様になったと考えられる。

【函館市の学力向上策】

- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた統一性・一貫性および継続性をもった指導の推進
- ◎ 学習用端末を用いた個に応じた思考の保障や協働した問題解決の場を設定した学習指導の推進
- ◎ 見通しや振り返りの場を充実し子どもの学びの主体性を引き出す学習指導の推進

【Webページ】



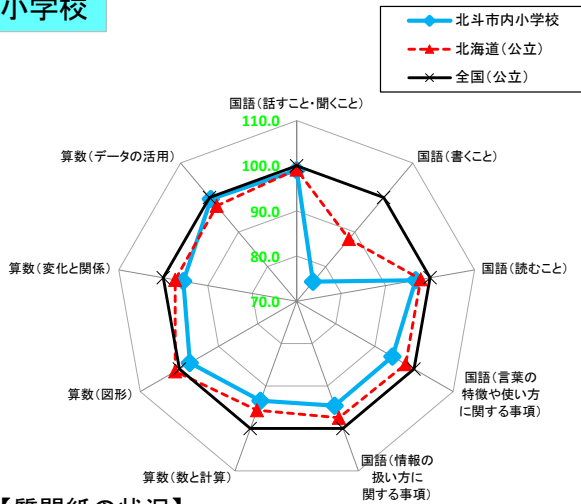
■ 北斗市内の状況及び学力向上策（小学校数:11校、児童数:351人）（中学校数:5校、生徒数:379人）

【教科全体の状況】

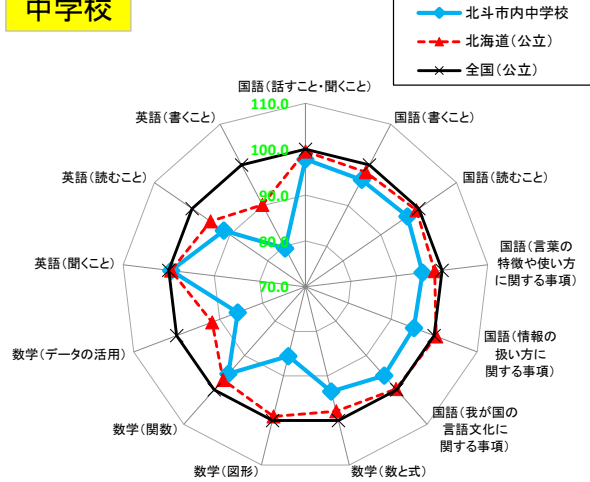
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	68
算数・数学	60	47
英語	-	43

小学校

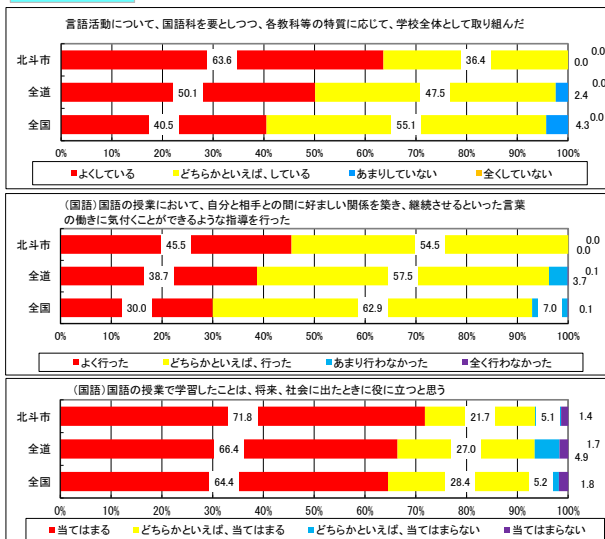


中学校

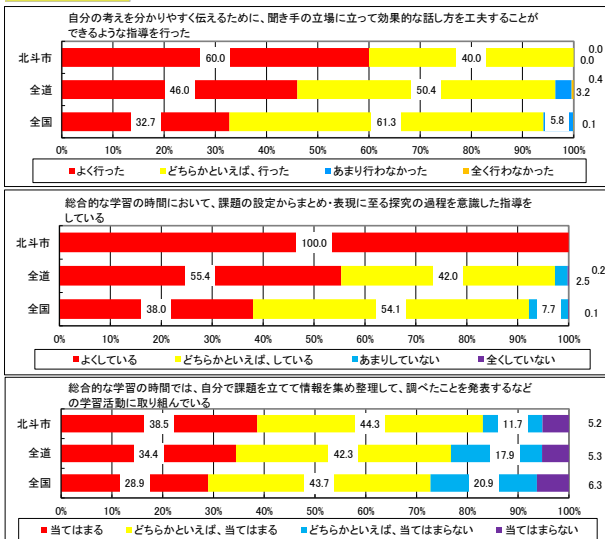


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特徴に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、平均正答率が全国と同様になったと考えられる。

国語の授業において、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

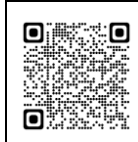
自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、平均正答率が全国と同様になったと考えられる。

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行ったことにより、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【北斗市の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末を活用した学校間の接続や様々な人々とのコミュニケーション活動の推進
- ◎ 土曜授業及びコミュニティ・スクール等の活用により、地域の特性等に基づいた特色のある学校づくりに係る取組の充実
- ◎ 小・中学校が連携した教育課程の編成及び小学校における教科担任制の推進

【Webページ】



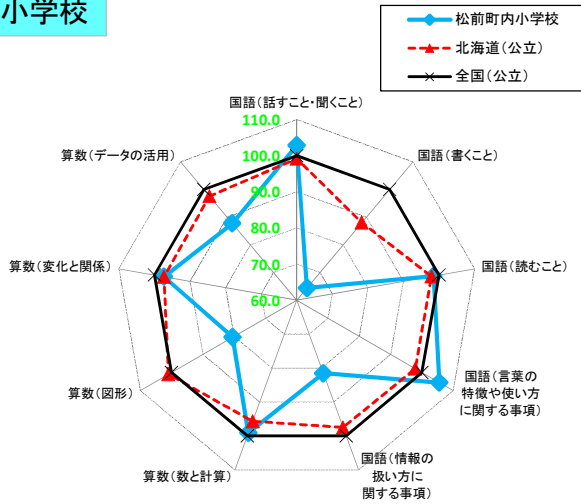
■松前町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:29人）（中学校数:1校、生徒数:27人）

【教科全体の状況】

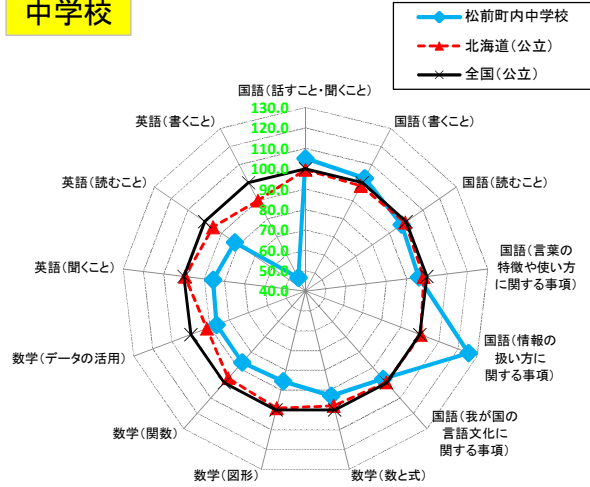
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	73
算数・数学	58	45
英語	-	36

小学校

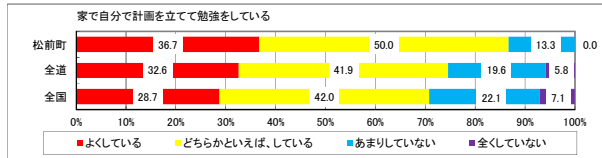
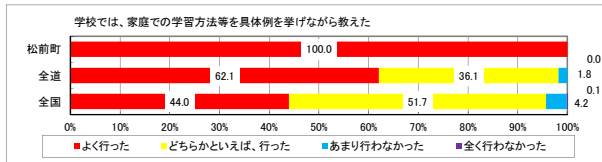
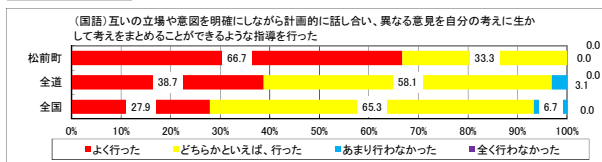


中学校

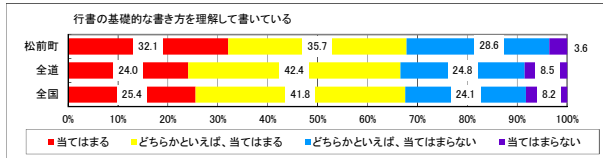
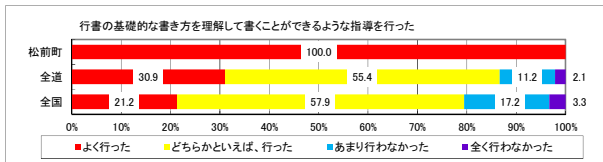
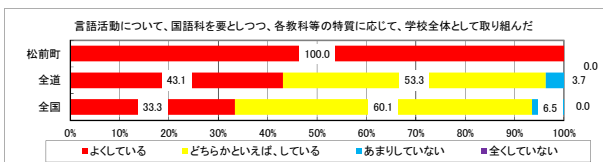


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての学校で、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語科の「情報の扱いに関する事項」の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

行書の基礎的な書き方を理解して書くことができるような指導を行ったことにより、行書の基礎的な書き方を理解して書いていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【松前町の学力向上策】

- ◎ 全小・中学校、地域住民及び保護者が一体となった学校運営及び小中9年間の一貫した教育活動の推進
- ◎ アクションプランに基づく「教師の授業力向上」と生活リズムの改善に向けた「松前っ子3リズム」の徹底
- ◎ ICT機器を活用したプログラミング学習とICT支援員による教職員の研修の充実

【Webページ】



(R5.12掲載予定)

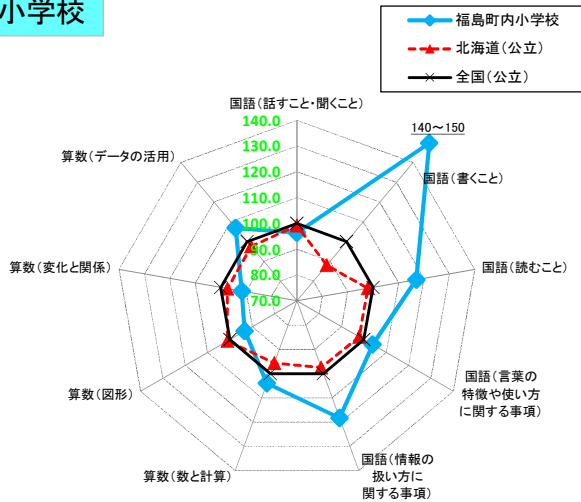
■福島町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:10人）

【教科全体の状況】

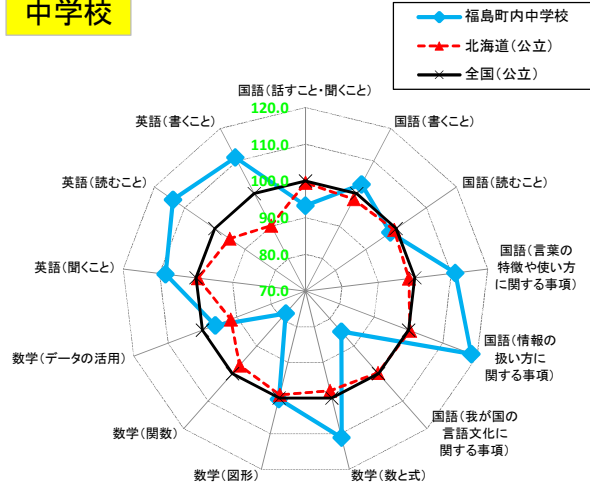
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	70
算数・数学	63	50
英語	-	51

小学校

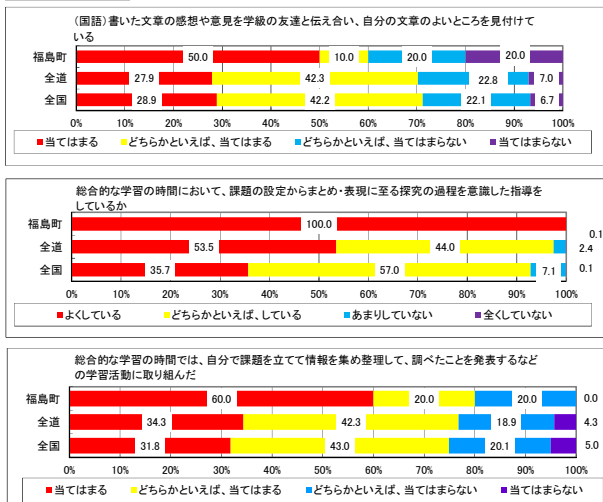


中学校

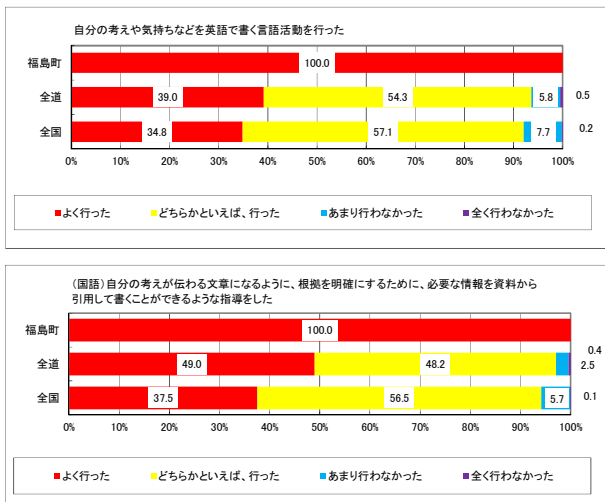


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける学習活動の充実を図ったことにより、国語の「書くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行ったことにより、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったことにより、英語の「書くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために、必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【福島町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校、高等学校と教育委員会を構成メンバーとした福島アカデミーにおける校種間の連携の強化及び教職員の資質向上
- ◎ 学習支援アプリ「e-ライブラリ」の導入及びICT支援員を活用したICT教育の推進
- ◎ 児童生徒・保護者に対するICT機器を利用する際の注意事項等の情報モラルの啓発

【Webページ】



(R5.12掲載予定)

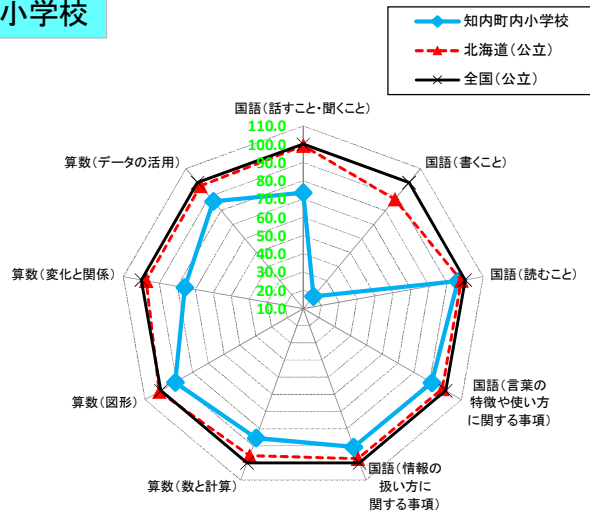
■ 知内町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:21人）

【教科全体の状況】

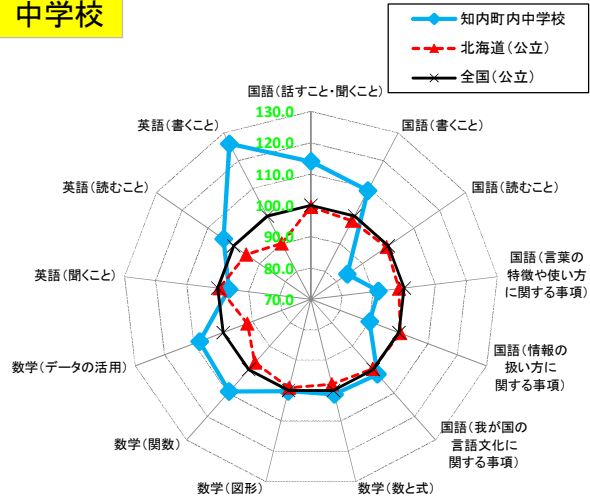
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	70
算数・数学	52	53
英語	-	47

小学校



中学校

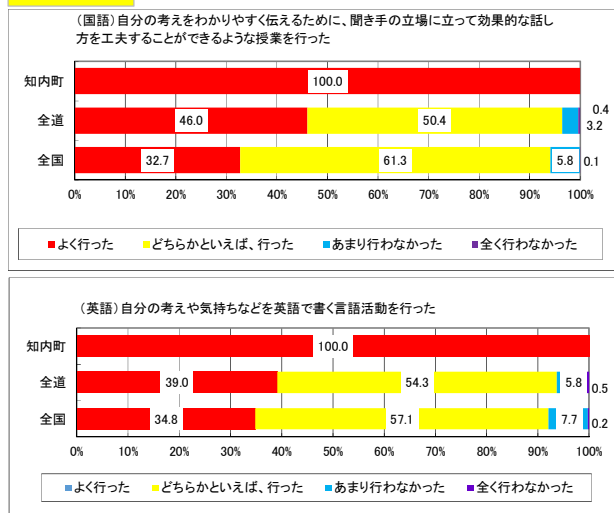


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語科の「読むこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道とほぼ同様になったと考えられる。
具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、自分の考えをわかりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
英語の授業において、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったことにより、英語の「書くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【知内町の学力向上策】

- ◎ 小・中9年間を通じた教育課程の編成と指導の充実
- ◎ 小・中学校教員による相互乗り入れ授業や小学生と中学生の交流学習等の充実
- ◎ 英語教育推進協議会を中心とした、乗り入れ授業や指導方法の工夫、改善等の一貫した指導体制の推進

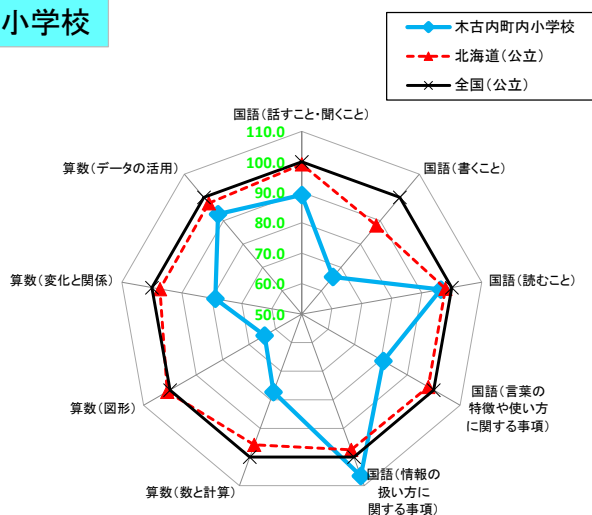
■木古内町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:14人）

【教科全体の状況】

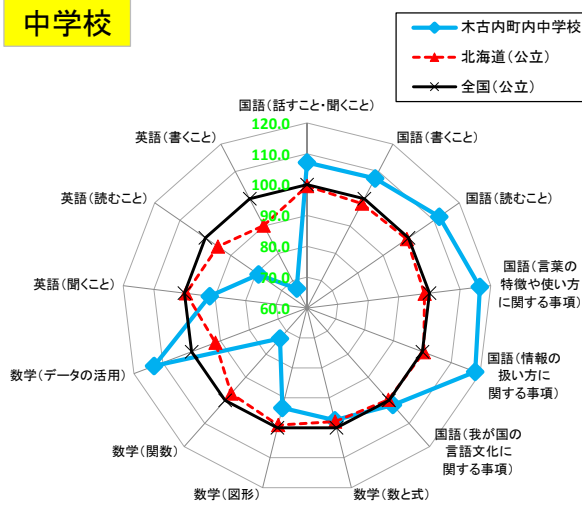
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	76
算数・数学	49	48
英語	-	38

小学校

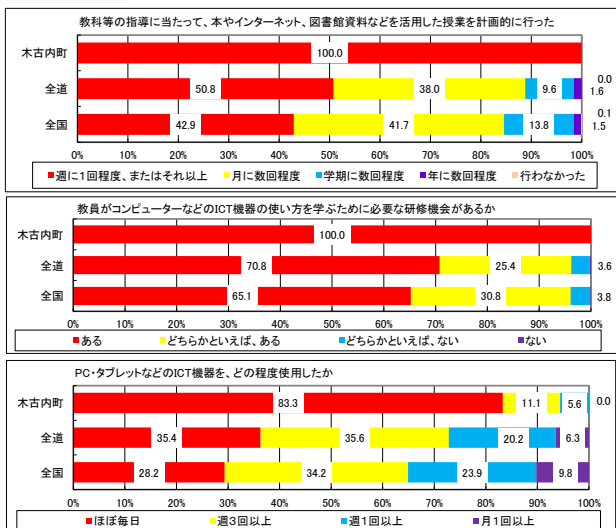


中学校

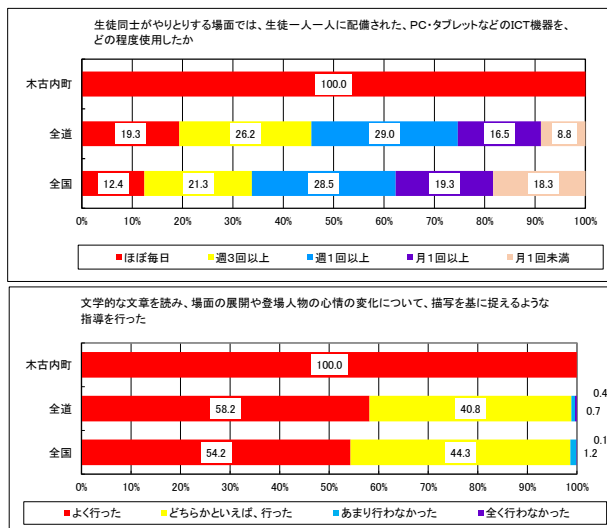


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、国語の「情報の扱いに関する事項」の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

教員がコンピューターなどのICT機器の使い方を学ぶための研修の機会を確保したことにより、5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を積極的に活用したことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導をしたことにより、国語の「読むこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【木古内町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校9年間を通じた年間指導計画の充実・改善と生徒指導の充実
- ◎ ICTを積極的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の探究型学習を取り入れた授業改善の推進
- ◎ 校内研修や派遣研修を通じた教職員の指導力の向上

【Webページ】



(R6.1掲載予定)

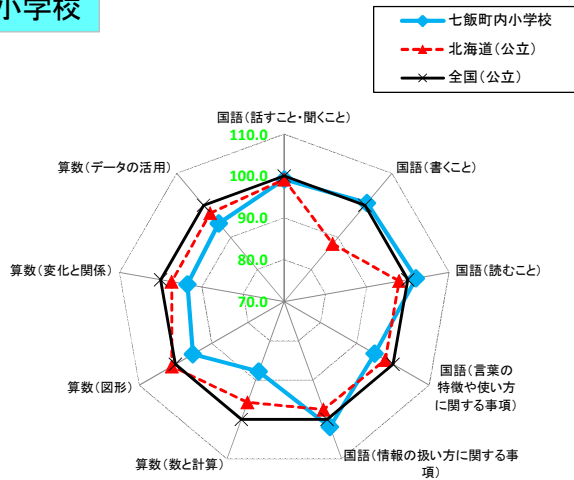
■七飯町内の状況及び学力向上策（小学校数：5校、児童数：219人）（中学校数：4校、生徒数：205人）

【教科全体の状況】

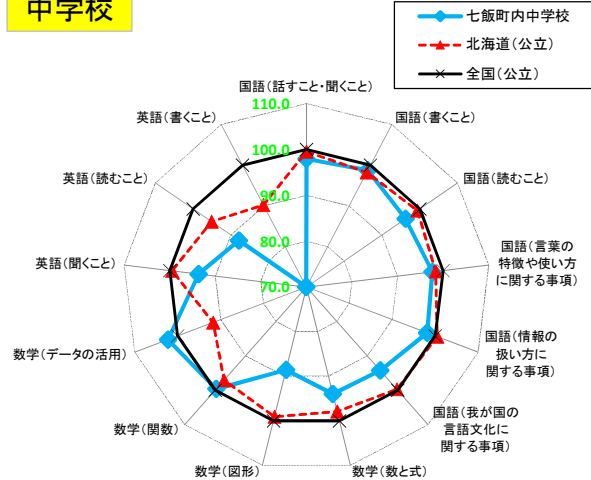
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	68
算数・数学	58	49
英語	-	40

小学校

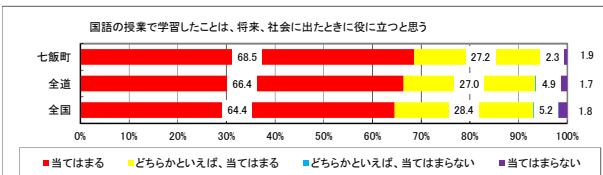
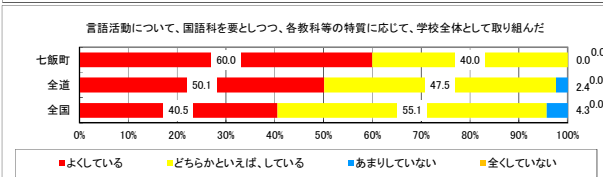
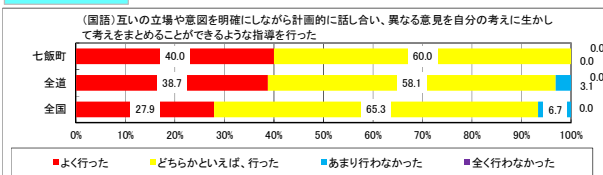


中学校

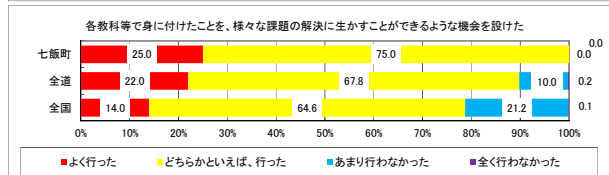
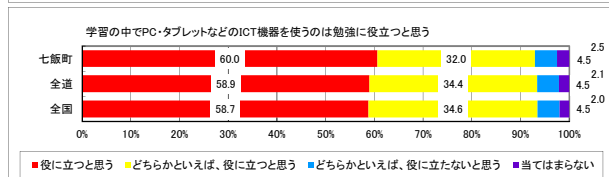
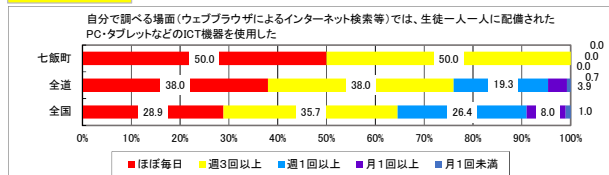


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特徴に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の「読むこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、数学の「データの活用」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【七飯町の学力向上策】

- ◎ 中学校区単位におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進
- ◎ 9年間の学びの連続性の確保と各学校における重点教育目標の達成に向けた特色ある教育課程の編成・実施
- ◎ 学習支援員の配置による児童生徒一人一人の習熟度に応じたきめ細かな学習指導の促進

【Webページ】



(R5.10掲載予定)

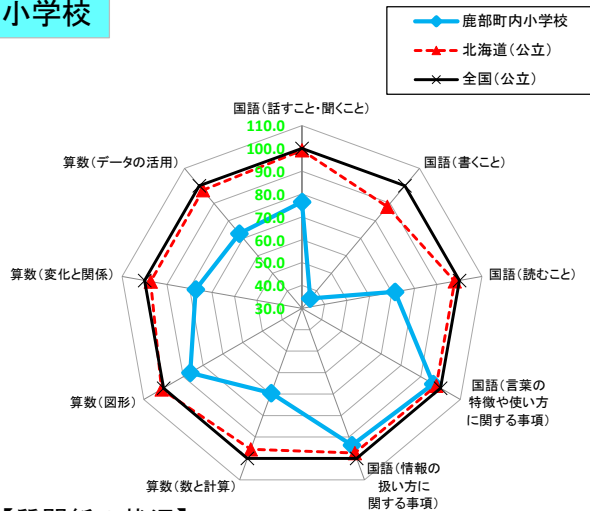
■鹿部町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:21人）（中学校数:1校、生徒数:23人）

【教科全体の状況】

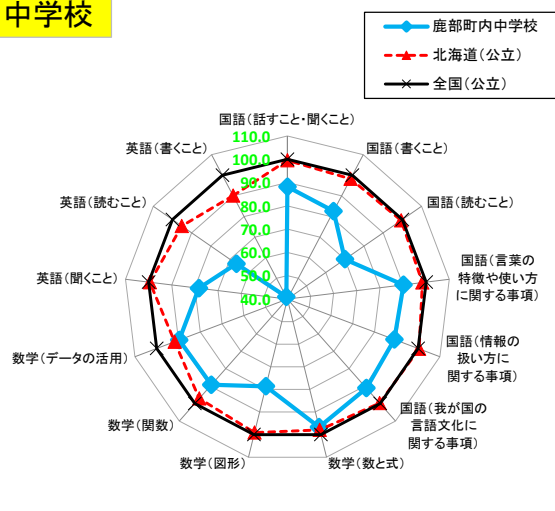
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	56	59
算数・数学	47	46
英語	-	31

小学校

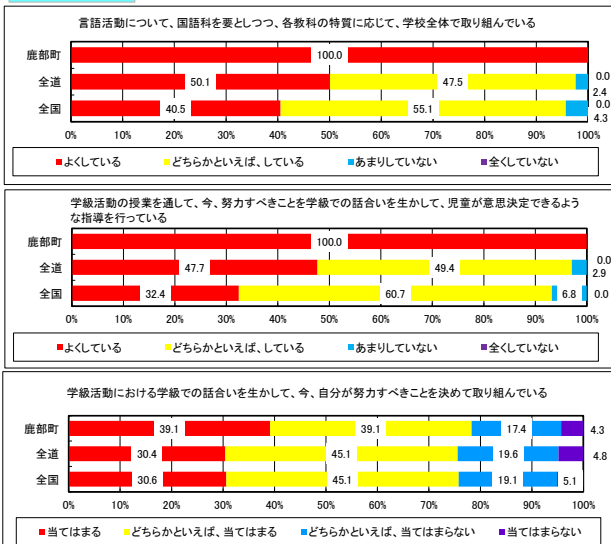


中学校

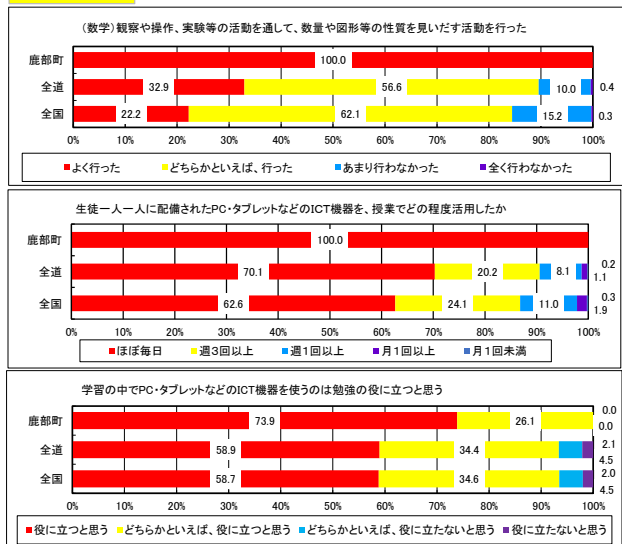


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科の特質に応じて、学校全体で取り組んだことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。

学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、児童が意思決定できるような指導を行っていることにより、学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の「数と式」の領域で、平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【鹿部町の学力向上策】

- ◎ ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実
- ◎ オンラインによる双方向型授業や学習支援サービスを活用した家庭学習等、学びの保障の充実
- ◎ 幼児教育を基盤とした幼小中の一貫した教育に向けた施策の推進

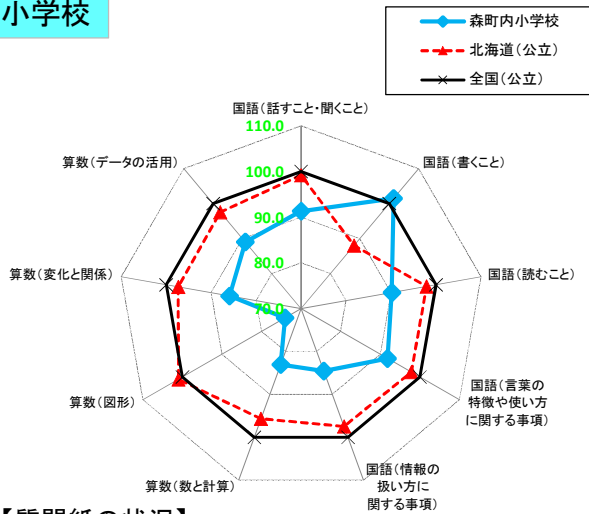
■森町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:96人）（中学校数:2校、生徒数:84人）

【教科全体の状況】

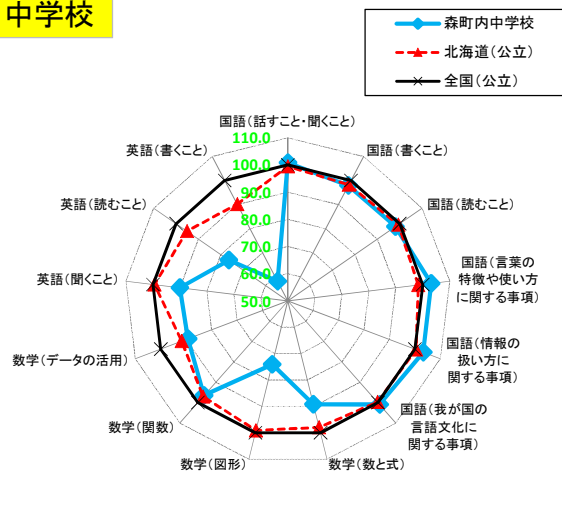
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	70
算数・数学	51	45
英語	-	36

小学校

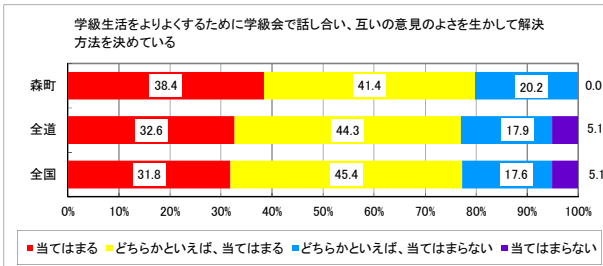
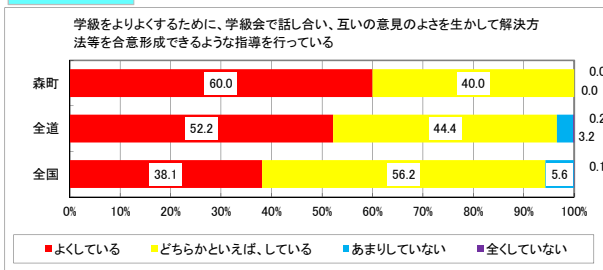


中学校

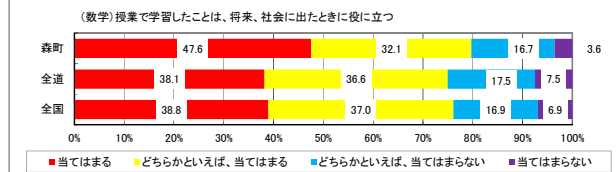
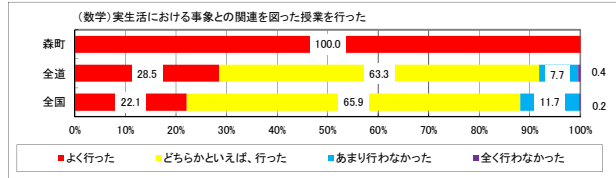
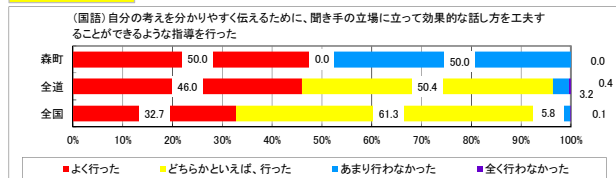


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

ICTを活用した子どもたちの学びの保障の促進を図ったことにより、国語の「書くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行ったことにより、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【森町の学力向上策】

- ◎ 教育課程の不断の編成、実施、評価、改善の確実なサイクルのための支援
- ◎ 小中一貫した教科等横断的な学習及び森町の「ひと・もの・こと」を生かしたふるさと学習の展開
- ◎ オンライン授業の環境整備や教職員研修の充実によるICTを活用した子どもたちの学びの保障の促進

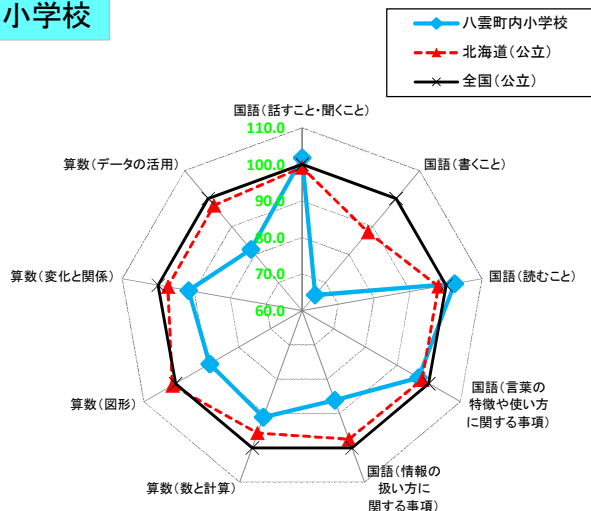
■八雲町内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:97人）（中学校数:4校、生徒数:101人）

【教科全体の状況】

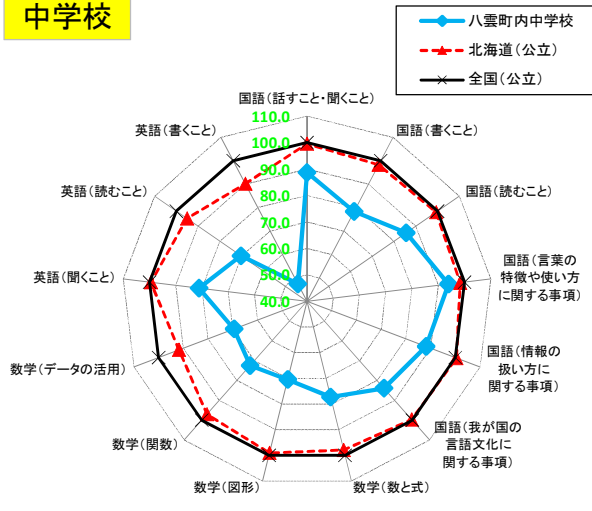
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	60
算数・数学	56	38
英語	-	33

小学校

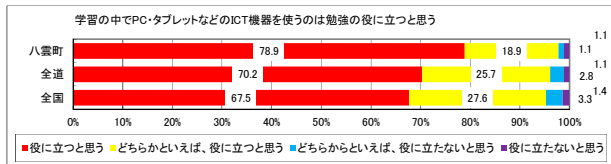
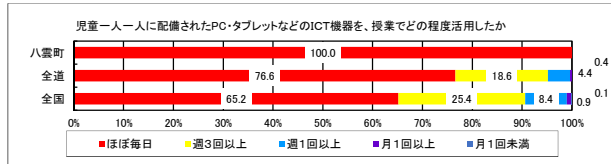
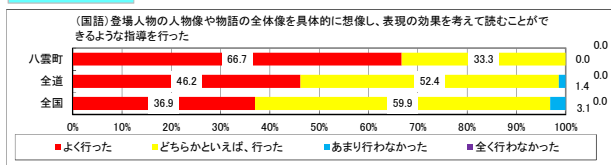


中学校

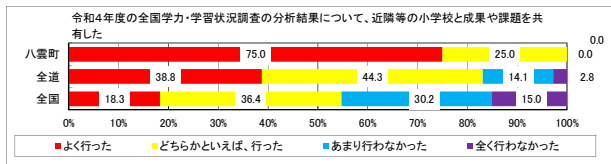
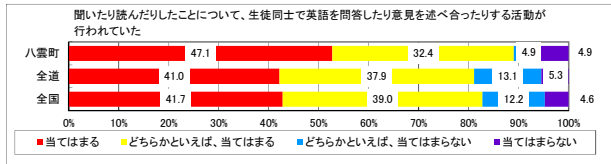
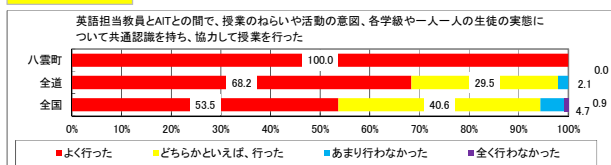


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答する児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

英語担当教員とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと回答する生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

「小中一貫型コミュニティ・スクール」の取組を推進し、「社会とともにある学校」の具現化を図ったことにより、令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したと回答する学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【八雲町の学力向上策】

- ◎ 「基礎的・汎用的読解力」の育成に視点を当てた授業改善に係る共通実践事項「八雲スタイル」の推進
- ◎ 学校間におけるアプリケーションごとの活用法の共有による、学習用端末の”普段使い”の促進
- ◎ 各中学校区内で目指す15歳の姿を共有した「小中一貫型コミュニティ・スクール」の推進

【Webページ】



(R5.12掲載予定)

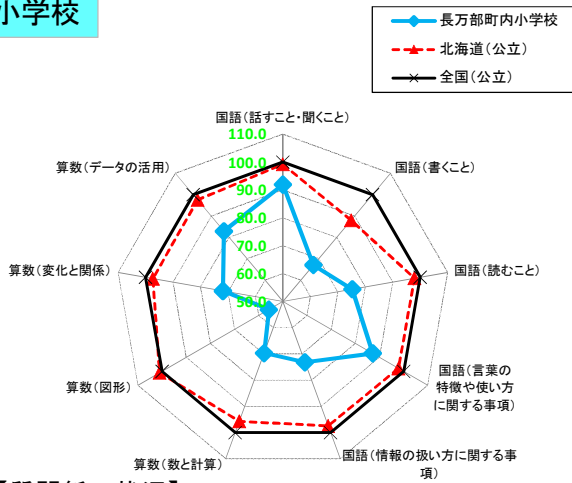
■長万部町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:28人）（中学校数:1校、生徒数:26人）

【教科全体の状況】

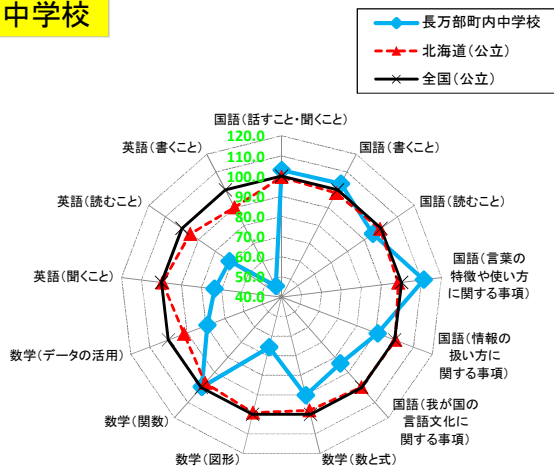
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	56	68
算数・数学	43	45
英語	-	31

小学校

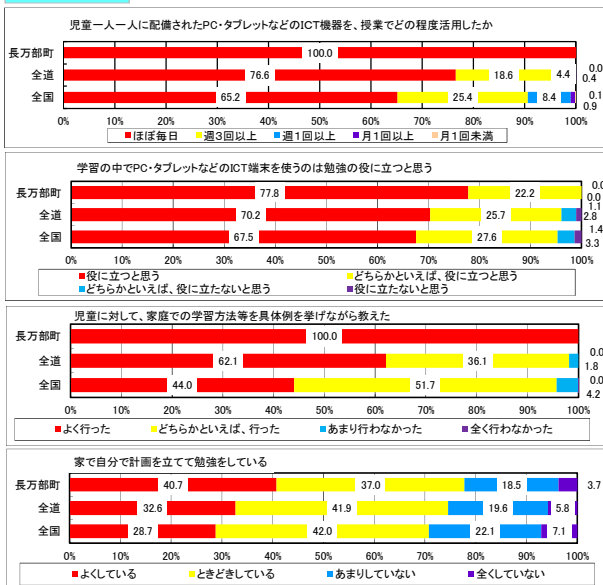


中学校

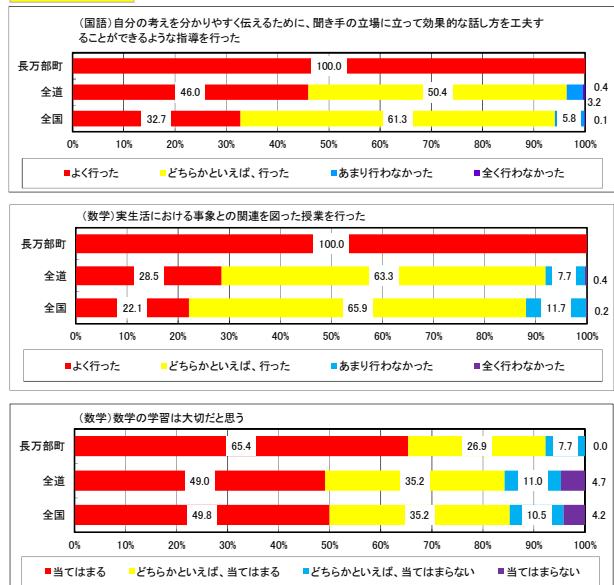


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT端末を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童に対して、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の学習は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【長万部町の学力向上策】

- ◎ 教職員の情報活用能力の育成及びICTを活用した教育活動の推進
- ◎ 幼児及び児童の交流や教員間における意見交換の機会の確保による幼保小連携の促進
- ◎ 長万部町教育連携会議における課題の整理及び対策の検討による小・中学校、高等学校が連携した教育活動の充実

【Webページ】



(R5.12掲載予定)